

第12回岡山県肉牛共進会について

岡山県和牛試験場

1、はじめに

例年のように、年末おし迫って12月20日、21日、岡山家畜市場で、岡山県主催、岡山県総合畜産および岡山畜産事業協同組合後援、という形で開かれた岡山県肉牛共進会も、数えて既に12回になる。食肉の需給のアンバランスから、肉牛の異常な高値を反映して、関係者の関心は高かったと見ることができた。

ここに、共進会の概略を記してこの種共進会のこれからの対処する材料としたい。

2、出 品

出品は52頭で、県共進会として適当な規模といえる。内訳は雌が14頭去勢が38頭で、去勢が圧倒的に多かったことはこれからの肉牛の在り方として必然的なことであろう。

年令別に見ると、雌は4才3頭、5才8頭、6才3頭で、3才が全然出品されていない。トップレベルの肉牛を出すべき県共としてはもう少し若令化が望ましい。去勢は2才6頭、3才15頭、4才13頭、5才2頭、不詳2頭となっていて、年々若令化のきびしさは見えるけれども、まだ主体が3-4才にあって全体の4分の3を占めていて、そうあってほしいと思われる2-3才のものが約半数という現状は物足りない。和牛の経済性を高める上から、2-3才の若令去勢牛に主眼が置かれなければならないことを改めて力説したい。

産地別に出品の多い順に見れば、真庭9、苫田8、阿哲6、上房5、勝田3、久米2、英田、井原各1及び不詳17となっている。これについては産地不詳の17頭について、前述の年令不詳とともに、少なくとも県共進会への出品牛位は登録ないし登記の証明書のついたものに限定すべきだということを強調するに止めておこう。

3、体 重

雌の平均589・1kg(157・1貫)で、肉牛審査標準に示す範囲外のもの、635kg(170貫)を超えるものが2頭、525kg(140貫)に足りないものが1頭

あった。

去勢の平均は522・5kg(144・4貫)で450kg(120貫)に満たないものが1頭あったのは考えさせられる。

次の体高などと併せ考える必要があるが、総じてもう少し体重がほしいと思われ特に去勢においてその感が深かった。

4、体 高

雌の平均は127・5cmで、標準に照して大き過ぎるものが3頭あった。前述の体重と考え合わせて、肉付きが満足な状態にあるためよりもむしろ体格が大きいために標準の体重を保っているとすれば考えものだろう。逆に標準に達しないものは論外としておこう。

去勢は平均129・5cmで取り立ててということもないようであるが、小さ過ぎるものや反対に大き過ぎるものが何頭かあって、まだ規格の不揃いが指摘される。

5、胸 囲

雌の平均は201・9cmで決して大きくはない。まして標準以下のものが2頭あった。

去勢の平均は196・3cmで、これも幾分物足りない。総じて体格の大きい割合には肥育程度がもう一息足らないと見るべきであろう。

6、管 囲

雌の平均が17・2cmとこれはひじょうに太い。標準を上廻るものが過半数では困ったものである。一方、去勢は平均18・4cmでほぼ中庸を得ている。しかし、慾を言えば骨はできる限り細くしたいように思う。

7、一般外貌

だんだん規格が揃って来つつあり、殊に発育大きさ、中軀、資質などは目に見えてよくなっているが、後軀殊に腿に不満なものが多かった。というのが審査の概評であったが、もっと細かく言えば、まだ大き過ぎたり、小さすぎたりするものがあって、規格

岡山畜産便り 1962.02

の統一が不十分なこと、均称体積、体の繋り、角や骨等は良くなっているが、被毛皮膚は優良な肉牛として重要な要素であるから更に改善すること、骨繋りも更によくし、腿の充実をはかることなどが肝要と見受けられた。

8、価 格

全部せりにかけられ、極めて活潑な取引が行なわれたことは、誠に結構なことであった。

雌は平均 209,507 円 (293,100 円－155,000 円) で、全部のと殺成績が分からないので、今大まかに枝肉歩留りの平均を仮りに 60% とすれば、枝肉量の平均が 344・6 kg (94・3 貫) となるので、枝肉単価は 1 kg 当り 608 円弱 (100 匁当り 222 円強) ということになる。因みに 12 月 20 日の山陽新聞にすれば、大阪枝肉市場のめす飛び 480 円であったことを考え合わせてかなり良い相場であったことがわかる。

去勢は平均 145,143 円 (213,200－112,800 円) で、ここでも、仮りに枝肉歩留りの平均を 57% と見れば、枝肉量は平均が 297・8 kg (82・3 貫) となるので、枝肉単価は 1 kg 当り 487 円弱 (100 匁当り 176 円強) となる。これも山陽新聞による大阪枝肉市場の前日の相場去勢牛飛び 440 円に比較して見て、その高値がわかる。

購買者が県内業者に限られていたので、祝儀相場とか店の宣伝とかの要素を加味し更に肉牛の一般の高値を計算に入れても、とにかく出品者にとって良い相場であった。

9、地区別入賞の様

地区別の入賞の様を見れば倉敷、吉備等県南部が依然一般に優れ、北部がまだ劣っていた。ところで、殊に今回ひじょうに成績のよかった町があった。これは肥育技術がまだ初期の過程にあるため、優れた指導者を得たとか、一致協力して精励したとかの結果が極めて端的に現われたと解すべきではなかろうか。よく見習いたいものである。

10、おわりに

第 12 回岡山県肉牛共進会について、前述したところを要約して見ると、

- (1) 出品年令は若令化されて来たが、将来まだ若令化が望ましいこと。
- (2) 出品牛は産地、年令等がはっきり識別でき

るように、登録証明書等をもつたものに限定する必要のあること。

- (3) 体重で去勢のそれは今少し重くあってほしいこと。雌の体高はやや大き過ぎる嫌があったこと、胸囲は総じてやや不満足で、もっと肥えい程度の進んだものに揃えたいこと、管囲が幾分太過ぎ殊に雌にこの傾向が甚しいこと。
- (4) 資金は大分よくなっているが、皮膚被毛をもっとよくしたいこと、体型では後軀殊に腿の充実を図りたいこと。
- (5) 価格は予想を上廻る高値であったこと、などを挙げた。
- (6) 出品地区別の優劣の差が著しかったこと。

その他、将来への要望として挙げたいことは、

- (1) ホルモン肥育を普及徹底すべきであること。
- (2) 若令去勢牛の肥育を奨励する立前から、共進会の審査は、性別の他更に年令別に区分して行なう必要が痛感されたこと。
- (3) なお、これは言わずともがなとも思われるが、肥育程度の極めて未だしものは出品を差しひかえること、また、出品牛がロクに手入れもされないで、垢をかむり、腿に糞をつけて出品されるなどはどうかと思われること、などを付け加えておきたい。

終りに県総合畜連が計画した、出品牛の肥育経過の記録を集めることは誠に立派なことで、出品までにどのようように苦心して、あるいは余り苦勞なしに、出品牛が達成できたかを研究することが、この共進会への画竜点睛となるであろう。

岡山畜産便り 1962.02

第12回岡山県肉牛共進会出品牛と殺成績

出品 No.	性	年 令	入 順	賞 位	生体重	枝肉量	歩留	価 格	単価	枝 肉 概 評
1	牝	5	1~1	179	114.9	64.13	292,300	272	サン不足, 色々少々不良 質B	
8	〃	4	2~3	155	94.0	60.6	201,000	214		
9	〃	4	3~3	143	84.6	61.2	175,000	207	サン不足 質B	
11	〃	5	1~3	155	97.0	62.5	220,000	227	サンB+ 質BA	
12	〃	6	3~1	160	101.0	63.1	220,000	218	サンA, 質AB, 脂色BA	
14	〃	5	1~4	178	—	—	293,000	—	サンA, 質AB	
15	去勢	2	2~7	131	71.9	54.8	129,300	169	サン少, 質B	
29	〃	4	2~13	177	113.2	63.9	213,200	188	サン特上A 質A, 脂色A上	
32	〃	3	3~10	138	76.7	55.0	132,300	173	サン少, 質B	
34	〃	3	3~14	132	70.5	53.4	126,300	179	サン少, 質BC	
41	〃	4	1~4	155	87.3	56.3	163,000	187		
47	〃	5	1~1	156	97.1	62.2	165,000	170	サン少々不足	
49	〃	5	3~5	147	85.8	58.3	151,000	177		

註 県総合畜産安東技師による。